環の郷を訪ねて ②

又左衛門井（またざえもんゆ）

新旭町の川原市には、河原市宿跡をしのぶ多くの屋号や家名が残っています。大正期までは、五十四戸程の集落で、三十戸が農家、専業または副業として二十余の業種を生業としていました。その昔の河原市を次ぎのように唄っています。「酒屋金持ち　北出は田持ち　中の源七っあんは京暮らし」北出とは北町の又左衛門の家で、いづれも河原市の旧家でした。在所は宿駅であり、馬を飼う者が五～六戸ありました。飼主の義務として、日割りで馬を引き駅に出向き、公用に服するとあります。又左衛門も馬方として勤めていました。今も古老から「又左衛門が河原市か、河原市が又左衛門か」と田地の多さの語り伝えを耳にします。こんにち〝又左衛門井〟の名を残し

西部の田を灌漑し集落内から安養寺境を走り、県道北端を走る水路として用いられています。

江戸時代寛永期（一六二四～四四）頃の人。正直者の馬方は、藤樹先生の講話をしばしば聞きに行ったと伝えられ、子孫は代々又左衛門を継いでいます。しかしその後川原市を離れ又左衛門の旧宅跡には顕彰の碑が建ち、馬方の善行をしるしています。

（石田　弘子）

役員紹介

顧問	海東　英和	（市　長）
同	玉垣　勝	（市教育長）
同	安原　啓	（学識経験者）
同	松本孝太郎	（学識経験者）
同	久保田暁一	（学識経験者）
会長	上田藤市郎	（高　島）
副会長	弘部　健次	（今　津）
同	北川　暢子	（安曇川）
常任理事	飯田　典子	（マキノ）
同	鎌田　一彦	（朽　木）
同	石田　弘子	（新　旭）
同	渕田　隆雄	（安曇川）
同	川越　清司	（安曇川）
理事	小多　偕裕	（マキノ）
同	高谷美智子	（マキノ）
同	三田村潤子	（今　津）
同	井花　定樹	（今　津）
同	安本　成権	（今　津）
同	小林　忠伸	（今　津）
同	足立　清勝	（新　旭）
同	高橋　志郎	（新　旭）
同	萬木甚一良	（安曇川）
同	多胡　賢	（安曇川）
同	井上　直彦	（高　島）
同	田中　清行	（高　島）
同	清水　鉄次	（高　島）
監事	古谷　芳實	（朽　木）
同	山本　義雄	（安曇川）
事務局	中江　彰	（記念館）

会員募集

本会は中江藤樹先生に親しむとともに、その遺徳の顕彰をはかり、もってわが国のひとづくりに寄与することを目的としています。この趣旨に賛同していただける方は、ぜひご入会をお願い申し上げます。現在の会員数は１６３名。

おもな活動内容は次のとおり

1. 「藤樹賞」の贈呈
2. 藤樹教材の開発
3. 藤樹フォーラム、セミナーなどの開催
4. 藤樹ゆかりの遺跡見学会の開催
5. 会員の藤樹関連の出版活動支援
6. 学習会の開催
7. 会報の発行

会費については次のとおり

○一般会員　年会費１千円
○賛助会員　年会費１万円

■編集後記■

藤樹先生の門人教育は、現代的にいうと少人数による「座談会」であったように思います。市内五カ所で開催した《巡回講座》は、まさしく学習者が講師の謦咳にせっするかのごとく行われました。この地道な繰り返しが、徳風となって市民に広がっていくものと信じます。

今号の発行が年度末と遅くなり、大変申訳ありません。次号からは、もう少し早く発行できるように頑張ります。ご声援をよろしくお願いします。

（表紙題字） 竹脇曇卿氏（日展会友）